第29回　「家族理解」勉強会のお知らせ

　**対人援助の第一歩は「家族をまるごと理解すること。その理由は、それが最大の援助であるから。そしてそれは誰にでも取り組めることである」（団士郎先生より）是非ご一緒に「家族理解」を学んでみませんか？**

**対人援助に関わっている方ならどなたでもご参加できます。**

**日　時　令和2年1月8日（水）　　　18：30～20：30**

**場　所　山形市総合福祉センター　３Ｆ　会議研修室４　（一番奥の研修室です）**

内　容　　情報交換　ジェノグラム面接　事例検討　　　　**＊ＦＡＸにて申し込みお願いします**

**佐藤千鶴（地域包括支援センター　ふれあい　内）　行　　　＊2回目以降の方は名前のみでOK**

**ＦＡＸ　０２３－６２８－３９８４**

|  |  |
| --- | --- |
| **参加者氏名** |  |
| **所　属・職　種** |  |
| **住　　　所** |  |
| **連　絡　先** | **ＴＥＬ　　　　　　　　　　　　　　ＦＡＸ** |
| **事例提供希望** | **有り　（提供希望の方は○をつけて下さい）** |

　　　　　　～前回第２8回の様子～　　　【参加者】　8名（新規2名）

ケアマネ3名　　介護福祉士１名　　福祉事業団　1名　　包括支援センター3名

【情報交換】30分

　★ケアマネから包括に寄せられた相談の話題。サービス事業所と利用者との行き違いについての相談。苦情として扱うのか、新たな気づきとして前向きな方向へ導くか、初期対応の大切さを考えさせられました。★転勤で他の自治体を経験してきたケアマネから、○○市の方が山形市より家族の協力体制が良かった。山形市は家族の関係が希薄で、ケアマネの負担が大きい、と。「いやいや、たまたまいい家族との出会いが多かったのでは？」と横やりを入れてみましたが、やっぱり「家族の考え方」に地域性があるのは確かでしょう。山形市の地域包括支援センターの権利擁護部会では「支援者不在ケース」の課題について検討しています。身寄りがないだけでなく、身寄りがいても支援が困難なケースも含めて「支援者不在」。こうしたケースを担当すると、包括センターはもちろん、ケアマネも様々な負担が大きくなっている実態があります。

　ただ、支援者不在といわれる方にも今日までの家族の物語があります。家族理解に取り組むことで、その事情が分かり、向き合い方が、本人も、我々も、何らかの変化を起こすことになるでしょう。もしかすると、あきらめていた関係が復活する場合もあります。これって今話題のACP（意思決定支援・人生会議）と通じるものがあると感じます。★他にも、いろいろ情報交換

【家族理解のレクチャー】20分　　勉強会の目的、内容説明　　【ジェノグラム面接】　30分

【事例検討】30分　　　どんな家族？イメージを膨らませる　　個人ワーク　　二人で相談・・・

＊今回の事例は、高齢の親の介護に直面したとき、子供たちも高齢になり、それぞれ事情があり、どうにもならなくなっているケースでした。高齢の両親の介護がやってくることは予測できます。家族の構造の一つ、サブシステムを強化すること。親の介護について兄弟で話しあう提案をしておく事は、家族支援において重要と思いました。　　次回は令和2年1月8日（水）です。ぜひ一緒に学びましょう。お待ちしています（佐藤）

　＊団先生の著書「家族の練習問題　第８巻が出ました。15冊限定　1000円でお分けします。

　　　　　　（定価1200円　税抜き）希望者は佐藤へお申し込みください

　　　希望者は佐藤まで